

遊びは子どもの心の栄養素

活動名	子どもの遊びのひろば	活動区分	学校支援	放課後活動	地域未来塾 土曜学習	家庭教育	その他	
活動主体	(一社)新潟県子ども会育成連合会							
市町村名	後援(燕市)							○

こんなふうに取り組んでいます(活動の概要)

ねらい、目指すことは…

子どもの「つながり」と「集いの場」を提供し、遊びを通して親子のふれあいを深め、子ども達のしなやかな感性を育み、家族の絆を深める。

こんな活動をしました！

一般社団法人 新潟県子ども会育成連合会では、平成17年度から毎年、県内各地区の会場を巡回して「子どもの遊びのひろば」を開催してきました。今年度で43回目となりました。これは平成16年の集中豪雨による大水害、続けて発生した中越地震からの復興を願い、「被災地の子ども達が元気に遊び、笑顔が増えますように」との願いから始めたものです。新型コロナウイルス感染症のため令和2年度は開催できませんでしたが、令和3年度から再開し、上越、中越、下越の各地区を巡回して開催しています。

令和7年度は11月9日(日)中越地区燕市分水総合体育館で開催しました。あいにくの雨模様の中、燕市その他、近隣の長岡・三条・見附・新潟市から参加した家族を含め約100名程の来場がありました。県内の子ども会がいろいろな遊びを提供しました。今年は県子連リーダーズクラブの中・高生、ユースリーダーが初めてブースを担当し、遊びを提供しました。また新しい試みとして「親子で楽しみ、親子で学べる」機会となるよう絵本の読み聞かせ・防災コーナーを設け、絵本の読み聞かせ、段ボール迷路の設置、防災士の講話・防災グッズ作りを行いました。帰り際に「楽しかった!」と言ってくれる子ども達そして笑顔で見守るご家族の姿がありました。妙高・長岡・柏崎市の中・高校生・ユースリーダーのスタッフ参加が会場を明るく盛り上げました。



新発田市子ども会：射的ゲーム 三条市子ども会：紙トンボづくり 柏崎市子ども会ジュニアリーダー

こんな苦勞や困ったことがありました…

燕市からの後援事業として「子どもの遊びのひろば」を開催しました。燕市は子ども会事務局がないため、燕市役所こども政策部こども未来課から会場の確保、市の広報、チラシやポスターの配布等のPRで多大なご協力をいただき、感謝の念にたえません。近隣の市町村教育委員会、市町村子連事務局にも同様の協力をお願いし、快く引き受けていただきました。

また今年度は、県子連のリーダーズクラブがジュニア、ユースリーダーの活動発表の場として参加し、読み聞かせと防災コーナーの新しい企画も実施しました。講師の確保、物品の借用、スタッフ・物品の輸送等これまでにない経費が必要になりました。今年度は申請した「こどもゆめ基金」の助成を受けられたため助かりました。来年度、県子連は創立50周年を迎えます。一層、内容の充実を図り、にぎわいの創出を目指します。

地域への周知・啓発方法は…

事業を周知するには、開催地及び近隣の教育委員会、地元関係団体との連携が極めて重要です。そこで開催のチラシとポスターを作成し、燕市及び近隣の長岡市、見附市、三条市、加茂市、出雲崎町、弥彦村の幼保子ども園、子育て施設、小中学校、公民館等にチラシ(6,000枚)、ポスター(300枚)を配布し、設置・掲示を

お願いしました。分水地区に近い長岡市の小学校には全児童にチラシを配布しました。さらに燕市の市広報に記事を掲載し、全市的な告知を実施しました。燕市子ども未来課様からは全面的なご協力をいただき、開催できました。また長岡・三条・加茂市子連事務局からも同様に協力いただき、近隣市町村への広報に努めました。会場近隣の学校・園、地元の社会教育施設等へのPRは事業の成否にかかわるので今後も大切にしていきます。

ネットワーク

連携の相手先は・・・

「子どもの遊びのひろば」は、新潟県子ども会育成連合会が主催し、開催市または教育委員会から共催または後援を得て、幼保子ども園、小中高等学校、特別支援学校、子育て支援施設や公民館等、社会教育施設への情報発信をして参加者募集をします。地元の校園、子育て支援施設等の関係機関から協力いただくことは極めて大切です。参加団体：県内市区町村子ども会、国立妙高青少年自然の家、新潟県少年自然の家

今後参加を呼びかける団体：ボーイスカウト、ガールスカウト、地元の社会福祉協議会 等

指導者やボランティアの確保は・・・

期日と会場が決まると、県内の市区町村子ども会にブース開設の依頼をして参加申込みを行います。遊びの内容、指導者の数、必要な机・イスの数等を集約し、過不足の確認等、準備を進めます。遊び内容が重なった場合は事務局で調整を依頼します。「遊びのひろば」の指導者は、出店する子ども会の役員・指導者が中心です。今年度からジュニア・リーダー（中高生）、ユース・リーダーがブースを担当し、日ごろの活動発表の場として位置付けました。今年度の読み聞かせ、防災の講師は県子連役員からの情報等をもとに依頼しました。



防災コーナー：講話とグッズ作り



絵本の読み聞かせと積み木



柏崎市比角地区育成会：防災段ボール迷路

ネットワークを広げていくために・・・

他の社会教育団体・学校等との連携を進め、安全・安心で楽しい活動を行うことが大切です。県内の市区町村子ども会役員が地域学校協働活動のネットワークに参画し、他団体との関わりを深め、本事業をPRして協力を依頼することが肝要で、具体的な計画を検討しています。

成果と課題

こんな成果がありました！

雨で肌寒い天気だったせいか、来場者数は例年の半分程でした。幼・保・子ども園児、乳児が保護者と一緒に来場され、積み木や段ボール迷路を楽しみ、読み聞かせが始まると父母と一緒にお話を聞いている姿が印象的でした。子ども達は射的ゲームやバルーンアートの他、珍しい遊び、楽しい遊びに夢中でした。親子で遊びやものづくりに取り組み、一緒に楽しむ姿、指導者・ボランティアの方が親切に指導する姿は例年通りの成果となりました。親が見守る中、子ども達が楽しく遊ぶ姿、子どもの笑顔は何よりの宝物となりました。

課題と対策、これからの方向は・・・

「子どもの遊びのひろば」はチラシ・ポスターを作成し、参加を呼びかけるところから始まります。そのため開催する地元教育委員会や子ども会組織との連携が不可欠で、特に開催地の幼・保・子ども園、小学校への重点的なPRが成否の鍵を握ります。

全国子ども会から「子ども達が笑顔で元気に遊べますように」との思いが込められた義援金をもとに本事業を始めました。今後もその趣旨を引き続き大切にすることは勿論ですが、「子ども会活動でなければできないこと」「子ども会活動だからできること」に加え、他の社会教育・福祉教育関係団体との連携を進め、新たな体験活動の場の提供等を考えていくことが肝要です。安全で楽しい遊びや活動を通して、親子のふれあいを深め、しなやかな心を養い、次世代を担う子ども達の健やかな成長を育む機会を今後も提供していきます。

(問い合わせ先) (一社) 新潟県子ども会育成連合会

TEL 025 (230) 5298 fax 025 (230) 5292

E m a i l : n-kodomo@sage.ocn.ne.jp

H P : <https://www.kodomo-kai.or.jp/niigata/>